

各種センサーの機能

ALCOTT

販売店様、サービスマン様向け

本マニュアルは、販売店様及びサービスマン様が対象です。
ユーザー様向けの取扱説明書ではありません。

有限会社シモタニ

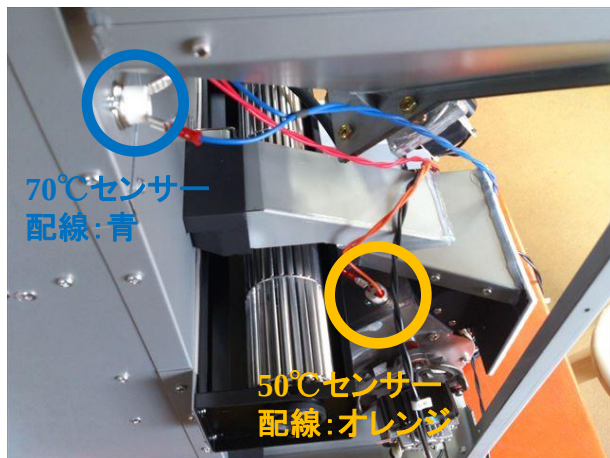
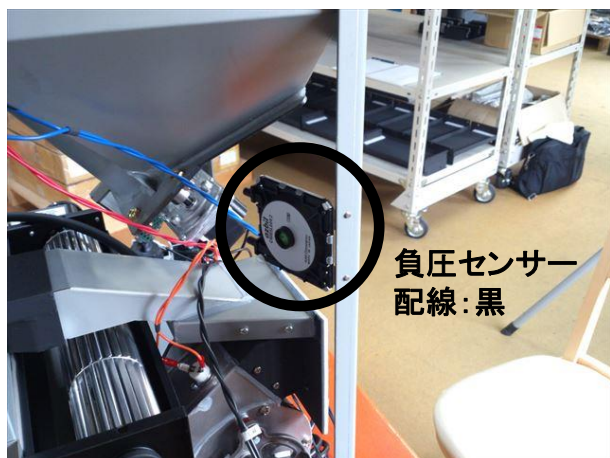
2019年6月

各種センサーの機能

ALCOTTは安全装置として複数のセンサーがあります。各センサーの機能と取付位置をご理解して頂き、正しくお使い頂くようお願い致します。

1 各種センサーの位置

ALCOTTは4つのセンサーがあります。交換等の作業の際は、ストーブ本体の右側のサイドパネルを外してください。



⚠ 注意

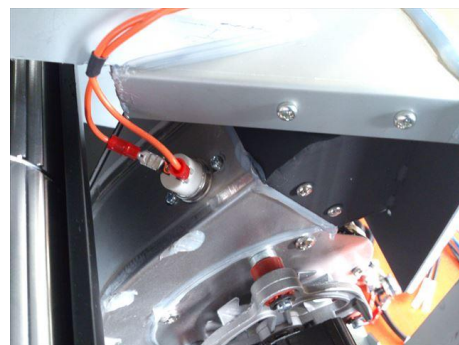
各センサーの配線は極性はありませんが、配線が色分けされております。間違った配線をするとストーブが誤動作しますので十分ご注意ください。

各種センサーの機能

2 50℃センサー

排気温度を監視しており、着火と消火の判断をするセンサーです。このセンサーが故障すると下記の現象が発生します。

- ・着火しても温風が出ない
- ・消火後に排気ファン、送風ファンが止まらない。
※通常は一定時間後にファンが停止します。



3 70℃センサー

炉の背面の温度を監視しており、ストーブが過熱するのを防ぎます。このセンサーが感知するとストーブが下記動作をします。

- ・風量に関係なく突然送風が最大になる
※風量ダイヤルを調整できなくなります
- ・ペレットの供給を絞るため火が小さくなります。



火力を大きくして風量を絞った状態で長時間使用しているとこの現象が発生しやすいです。一定温度に下がると火力、風量の設定通り動作します。この現象が頻発する場合は、火力を小さくするか風量を大きくしてください。

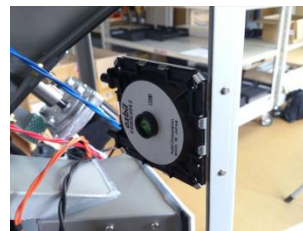
※エラーの表示やブザー音等はありません。

4 負圧センサー

排気の空気圧を監視しており、強風等で排気を押された際に燃料タンク内に火が入る逆火を防ぎます。このセンサーが感知するとストーブが下記の動作をします。

- ・排気・過熱エラーランプが「**点滅**」する
※初期ALCOTTではエラーBが点滅します
※AL-22以降はブザー音が鳴ります

ペレットの供給を停止して火を消そうとします
※基本的な動作は消火時と同じです



負圧センサー
AL-23以前
EMERSONと
EM-II



新負圧センサー
AL-24以降
※機能は同等
です

各種センサーの機能

排気エラーは、強風以外にもストーブが下記の状態の場合でも発生することがあります。下記に該当する項目があれば対処をお願い致します。

・排気経路に灰が堆積している

炉の裏側、排気ファン内部、壁貫通部の横引きの配管等に灰が堆積しているようであれば清掃してください。

・負圧センサーのゴムチューブの劣化で空気が漏れている、またはゴムチューブ内に灰等の異物が詰まっている

チューブにひび割れがあると空気が漏れてセンサーが誤感知することがあります。熱で硬化しやすい排気経路側は劣化しやすいです。チューブの交換が必要です。また、メンテナンス等で灰がチューブ内に入って詰まることがあります。その場合は、チューブ内をダスター等で清掃してください。

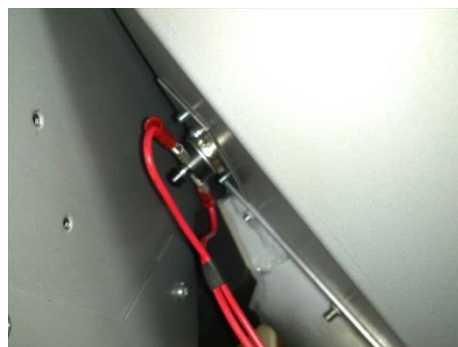
・排気ファンの故障または灰等の堆積物で回転が弱くなっている

内部を清掃しても回転しない、回転が弱い場合は排気ファンの交換が必要です。

5 90℃センサー

燃料タンクの温度を監視しており、ストーブが異常に高くなると感知します。このセンサーが感知するとストーブが下記の動作をします。

- ・排気・過熱エラーランプが「**点灯**」する
 - ※初期ALCOTTではエラーAが点滅します
 - ※AL-22以降はブザー音が鳴ります



排気ファンと送風ファンが最大回転で動作し続けます。AL-20以降のALCOTTは、搬送路のペレットを強制排出するため一時的に火が大きくなります。ストーブが下記の状態の場合でも発生することがあります。下記に該当する項目があれば対処をお願い致します。

・燃焼ポットを清掃しないまま使用している

灰等が堆積して燃焼ポットの底が塞がれていると燃焼位置が上になり、搬送路内に火が入りやすくなります。

・火力を大きく、風量を小さくした状態で長時間使用している

ストーブの温度が下がらないためこの状態で長時間使用しないでください。

・長期間メンテナンスをしていない等

このエラーの場合、コンセントを抜かない限りストーブは停止しません。再起動するには90℃センサー本体に付いているリセットスイッチを押してください。